

透明遊戯

波打際の透明な立方体

傾き 波にしたがつて移動してゐる

一辺三十センチもあるか

ころがつて姿を半ば海にかくし

濡れた砂浜を角で傷つけてゐる

眺めてゐる僕の周辺も

厚いプラスチックのやうな透明な面で囲まれてゐる

波打際の立方体をふくめて一辺三メートル位の立方体はその中に

僕を包みこみながら 移動し 傾斜してゐる

海岸線の延長の彼方には突出した崖がそびえ

崖の上には海の風を受けて松の木が立ち

崖には白い波しぶきがあがつてゐる

彼等も 一辺三千メートル位の立方体の中にある

急に傾斜した時風景は崩壊した

自らを保つたと思つたのはまちがひであつた

無残にも自らの肉体はひしやげ千切れ飛び

僕自身は観念の中でのみ存在してゐる

大変だ 水平線をふくめて さらに巨大なる立方体は

透明な面にかこまれたまま ゆらめくではないか

内包された全部の崩壊が行はれ いつのまにかの再構成

くり返されてゐる出来事は夜の暗黒には小さく輝く星をふくめて

無限に巨大なるものの傾斜一辺三十センチの立方体の中でも

比例にしたがつて 崩壊と再構成を行つてゐる

無限に小さい立方体

一瞬 すべての移動が止まることもある

その時には燃えさかるやうな黄金の光線が

棒のやうに しづかに 刺し通る

ああ 息苦しい時間の推移